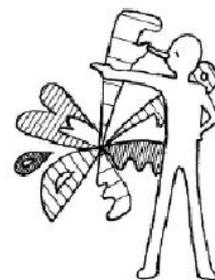


Freedom



こうこうせい じんけんこうほうし だい ごう
高校生の人権広報誌 “Freedom” 第5号

ねん がつ にちはっこう
2011年 1月11日発行

へんしゅう
編集 “Freedom” 編集スタッフ

な ら けんこうとうがっこうじんけんきょういくけんきゅうかい
発行 奈良県高等学校人権教育研究会

まいつき たし
毎月11日は「人権を確かめあう日」

“Freedom” への原稿・イラストなど投稿お待ちしております！

35回記念『わたぼうし音楽祭』に参加して

なつやす ちゅう がつついたち まいとしこうれい おんがくさい
夏休み中の8月1日、毎年恒例の「わたぼうし音楽祭」が
かいさい たかだしょうぎょうこうこう めい もよう
開催されました。高田商業高校のスタッフ4名がその模様
しゅざい かんそう よ
を取材し、レポートや感想を寄せてくれました。



さくねん ならぶんかかいかんこくさい かいきねん おんがくさい
昨年8月1日、奈良文化会館国際ホールで、35回記念『わたぼうし音楽祭』
ひら わたし たかだしょうぎょうこうこう へんしゅういいん
が開かれました。私たち、高田商業高校“Freedom”編集委員は、『わたぼ
うし音楽祭』の様子を取材してきました。

『わたぼうし音楽祭』は初めて開催された1976年以来、人として大切なメ
ッセージを発信し続けてきました。歌の歌詞は飾り立てたものではありませんが、
ぎゃく とうしんだい かし おお ひと こころ とど じぶん
逆に等身大の歌詞が多くの人に届き、自分とまわりの人、そして、社会と
のつながりを見直すことができると思いました。「あたりまえのことができなく
なってしまう」と日々感じている不安や、「ひとり一人は弱いけど 手と手をつ
なぎ」「ゆっくり ゆっくり 早く歩くんだ」と立場の違いを理解して、そして、互
いにつながって生きていくことの素晴らしさや強い意志など、歌詞から伝わって
くるものが多くありました。

(M・K)

『わたぼうし音楽祭』は、全国から障害を持つ人の詩や曲を募集し、選ばれた曲が歌われて発表され、その中から『わたぼうし大賞』を決めるものです。簡単に大賞を決めると言っても、どの曲も重みがあって、私はどれにも大賞をあげてほしいと思ったくらいです。その中で、見事『わたぼうし大賞』に輝いたのは、久保博揮さんが作詞・作曲した『半分ごっこ』でした。人は完璧じゃないから支え合って生きるんだということを歌った曲です。とても心に響く歌詞で、久保さん本人が演奏したピアノも素晴らしかったので、私も一番良いと思っていた曲でした。

もう一つ、西村健二さんが作詞した『Drop of Hope』も忘れられない曲です。この曲は、病気で日々体が衰えていき、いつ命が尽きるかという不安があっても、希望があれば生きる力になるんだよという思いが込められています。死は怖いもの、その死に立ち向かっている西村さんの強さ、そして、私は特別すごい生活を送っているわけではないけれど、その何でもない生活・命の尊さをこの歌詞は教えてくれています。

その他にも多くのことを今回の音楽祭の曲は教えてくれました。人のぬくもり、親の愛情、どれも今の社会では忘れられているような気がします。だからこそ、この『わたぼうし音楽祭』はこれからも続いてほしいと思いました。

(M・Y)

『わたぼうし大賞』に選ばれた久保博揮さんの『半分ごっこ』は「誰もが完璧には生きられない 半分ずつ分け合って支え合う あなたがくれたあたたかい気持ち わたしもあなたに優しくなれたら…」ストレートな思いや感謝の気持ちが伝わってくる歌でした。『半分ごっこ』の歌詞に私も幼い頃の記憶が浮かんでできました。私には一つ年上の姉がいて、お菓子のとりあいになったことがありました。その時、母が「半分こをすればいいじゃない」と言いました。私たちは、ひとつのお菓子を分け合って仲良く食べることができました。「半分こ」…それは魔法の言葉でした。『半分ごっこ』、それは喜びも哀しみもすべて分け合って支え合おうねという思いから生まれてきた曲だと思います。そんな風に生きていけたら、魔法のように何もかもが解決していくかもしれません。

『わたぼうし音楽祭』で、私は人権に関してたくさんのお話を学びました。人は出会いによって成長し、お互いに今回の『わたぼうし音楽祭』のテーマのように「あなたがいてくれてありがとう」と言える関係を素敵だなと思いました。

(T・K)

はんぶん 半分ごっこ

さくし さつきよく くぼひろき
作詩・作曲：久保博揮

じしん なみだ で
自信がなくて 涙が出て
こどく かん
孤独を感じてしまうとき
に
逃げてしまいそうになる わたし
でも そのままでいいんだよって
せの
背伸びしちゃだめだって
やさ しか
優しく叱ってくれたあなた

き やす
気休めでもよかった
せ なか お ほ
背中を押して欲しかった
この いっ ぽ あゆ
この一歩を歩みだすために

だれ かんべき い
誰もが 完璧には生きられない
はんぶん わ あ ささ
半分ずつ分け合って 支えあう
あなたがくれた あたたかな ^{きも}気持ち
わたしも あなたに優しくなれたら

げん き で
元気が出て ただうれしくて
あなたが ^{いと}愛しくなったとき
なに ^{かえ} じぶん ^き につ
何もお返しできない自分に気が付く
でも そのままでいいんだよって
いてくれればいって
優しく ^{わら}笑ってくれたあなた

ささ
支えてあげたかった
せ なか お
背中を押してあげたかった
いっ ぽ あゆ
その一歩を歩みだすために

だれ かんべき い
誰もが 完璧には生きられない
はんぶん わ あ ささ
半分ずつ分け合って 支えあう
あなたがくれた あたたかさのよ
うに
わたしも ^{だれ} ^{やさ} 誰かに優しくなれたら

きつと ^う 生まれてきたことに
かんしゃ す てき ひ び おく
感謝して 素敵な日々が送れるで
しょう

誰もが 完璧には生きられない
半分ずつ分け合って 支えあう
あなたがくれた あたたかさのよ
うに
わたしも ^{だれ} 誰かに優しくなれたら

それがきつとあなたへの ^{かえ}お返しと
なるでしょう

※『半分ごっこ』の歌詞は、わたぼうし音楽祭を主催する「財団法人 たんぽぽの家」のご好意により、ホームページ (<http://popo.or.jp>) の中から転載させていただきました。

職業人にインタビュー

帝塚山高校スタッフが昨年度に取材してくれた記事です。いろいろな人の話を聞いてみよう！

皆さんは何か将来の夢はありますか。高校生の私たちは、まだ職業についてよく分からないのに進路を決め、そしていつか一人の人間として自己実現をしなければなりません。私たちは皆「人権」が保障されています。つまり、私たちには自由に生きる権利があるのです。しかし、この権利があるという事は自分自身の力で未来を切り開かなければならないという事です。私もやはり、漠然とした将来に不安を感じています。そこで、知り合いの方で、様々な職業に就いていらっしゃる方々に直接お話を伺ってみました。

まず、歯科医の方のお話です。

「この仕事に携わるまで、自分がお金を貰うのにも関わらず、お礼を言われた事はなかった。この仕事をして初めて、患者さんが私にお金を払うのにも関わらず、ありがとうと言ってくれた。その言葉を聞いた時、自分の仕事のやりがいを感

じた。」

と、おっしゃっていました。

次に国会議員の方です。

「私の仕事のやりがいは、自分がこの国を良くしたいといつも思っている事に直結している事だ。自分の政策が実現した時や、賛成できない政策を潰す事が出来た時にそのやりがいを感

じる。」

と、おっしゃっていました。

次はタクシー会社の社長の方です。

「私が仕事にやりがいを感

じる時は、お客様から苦情の電話を受けた時に、そのお客様に謝りに行き、自分の気持ち

が通じて、頑張ってくださいと言われた時や、仕事で稼いだお金を自分の子どもの将来のために役立つ事に使えた時。」

と、おっしゃっていました。

最後は弁護士の方です。

「私が仕事にやりがいを感

じるのは、若い弁護士を育てる時。私は自分が結果的にこの仕事に携わる事が出来た以上、もし他の仕事を選んでいたらもっと幸せだったかもしれないなどという事は考えない。そんな事を考える事は不幸だ。今、自分がしている仕事をどれだけ一生懸命にやっ

と、おっしゃっていました。

これらのお話を伺って私が感じた事は、まず4人の方の仕事に対する熱意です。熱意を持って仕事をすると、どんな仕事でもやりがいを感じる事が出来るのだという事を実感しました。人それぞれ様々な生き方がありますが、今自分がしている事にどれだけ一生懸命になり、今の自分にどれだけ満足する事が出来るか、それは選んだ職業などには関係なく、自分次第だという事も実感しました。

ぜひ、この方々のお話を、今後の人生の参考にしてみてください。(E・I)

★話し合ってみようよ!★

前回掲載されたフリーダム第4号の記事「全国高校生集会に参加して」の感想を、スタッフ一同で出し合ってみました。

◇これを読んで、もっと考えていかなければと思いました。

◇自分の周りには、部落問題とかはあまり身近じゃないから、ふだんは考えたりしないけど、この記事を読むと、身近であっても気づいていないことがあると思う。だからもっと考えなければいけないと思いました。

◇人権について、今までまったく考えてこなかった人でも、これを読んで、考えることができるんじゃないかなと思った。

◇自分は、「全国高校生集会」というものがあることも知らなくて、部落の人とか差別のことがまったく視界に入っていなかった。そんな人が多い中で、筆者が部落差別のことや自分の思いを、前向きに訴えていこうとしていることは、すばらしいと思いました。

◇今まで身近に、差別や部落問題があることはあまり知らないで来たが、この記事を読んで部落差別について知った人は、決して部落のことを偏見をもって見たりしないと思う。このような差別がなぜなくなるのか？

◇記事は、自分の意見がきちんと書かれていて、よくわかりました。

◇差別の問題は、みんなもっと意識して考えていかなければ、と思いました。

◇差別は今でもなくなっていないと感じた。

◇部落差別以外にも、男女差別とか、なくなっていない差別はたくさんあるけれど、少しでもなくしていけるようにしていきたい。

記事を書いたスタッフより…

◇いままで部落のこととか知らなかった人が知ってくれたり、興味を持ってくれたようなので良かったです。

…どうでしたか？ みなさんの感想も、ぜひお寄せください。

“エコキャップ キャンペーン”について

高田商業高校スタッフ3名が、同校前生徒会長のSさんに聞きました

K n エコキャップキャンペーンについてお聞きしたいと思いますが、生徒会長としてボランティア活動全体についても教えてください。

Sさん 高田商業では年3回の全員参加の地域のクリーンキャンペーンを行っており、ボランティアには大変熱心です。生徒会では本年度はペットボトルのキャップを集めてNPO法人に寄付をし、それでワクチンを買って世界の子ども達に贈るという取り組みに参加しました。キャップは1キログラムで15円ほどになるそうです。高田商業では3か月で約3万個のキャップを集めました。今後とも続けて行けたらと思っています。

K t Sさんは奈良県の高校生全体のボランティア活動にも参加して来られたと聞きましたが。

Sさん はい、昨年インターハイで私たちが奈良県の高校生はボランティアとして参加しましたが、その時のおもてなしが他府県の方から大変誉めていただくものでした。それで、今年は奈良県高校生社会参画活動推進連絡会を作り、各高校の生徒会長などが話し合っ代表8名を選びました。私も選ばれましたが、その8名が県内の高校生のボランティア活動を計画し、推進してきました。

Y どのようなボランティア活動を行いましたか。

Sさん 平城京遷都1300年祭のキャンペーンのビラ配布や近畿総合文化祭のビラ配布などに参加しました。また、10月には県内のすべての高校が参加してクリーン大作戦（清掃活動強調月間）を計画して行いました。

K n・K t・Y 本日はお忙しいのに“Freedom”のインタビューにお答えいただきありがとうございます。大学に進学されてもボランティア活動頑張っ

てください。

Sさん はい、パラリンピックのボランティアにも参加できればと思っています。
ありがとうございました。



編集後記

◆今年もフリーダムをよろしくお願ひします。創刊3年目に入り、第5号の発行となりました。さて、記事を書いていて、やはり気になるのは、読者のみなさんの反応ですね。

◆今回は、前号の「全国高校生集會に参加して」について、筆者の思いや部落差別などの現実はどう向き合うかをスタッフ同士で話し合いました。こんな話し合いの場が、いろんなどころで広がっていけばいいなあと思っています。

高校生の人権広報誌 “Freedom” 第5号 (2011年1月11日発行)

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺1-23-1 奈良県解放センター内

TEL 0742(62)5555 FAX 0742(62)5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP <http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/>

※ ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※ 本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※ 本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託をうけています。